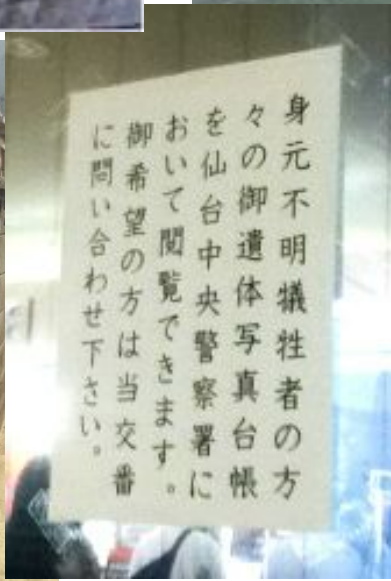




東日本大震災から3年

3.11～出会ったひと、ことの現在^{いま}



2011 年3月11日、
津波が到達したと
思われる時刻を差
した腕時計(左上)
／津波で流され地
上に乗り上げた漁
船(上)など



震災により全壊し
たEさんの民家(上)
は2年後の夏、先
祖を祀る仏壇とと
もに再建された
(左)【写真はすべ
て会員が被災地訪
問時に撮影した】

「あれから3年…」2014年3月11日、このような表現が各地で聞かれたと思います。

HuRPでは、これまで有志による被災地訪問をはじめ、現地の声を聞きボランティアに参加し、「いのちあってこそその人権」という立場で「3.11」と向き合ってきました。3年を経たいま、3.11後にHuRP会員が直接出会った「3.11と関わるひと」たちに、それぞれが今一度つながり、現況を知ること、そして、そこから改めて見えてくることを検証してみたいと思います。ここでは、会員3人の『3.11～出会ったひと、ことの現在』を紹介します。

▽ 卒業後やりとりのなかった大学の友人Yと、3.11後にFacebookでつながった。日々の生活を綴る彼女の様子から、3.11後、家族で東京を離れ高知に移住したことを知り、本企画を機に、2011年当時のこと、そして現在のことを聞いた。(A.T.)

3.11まで、原発やチェルノブイリについて自身に関わる問題として認識したことがなかったというY。3.11当時、長男4歳、次男2歳の母。「低線量被ばくや内部被ばくの恐ろしさ、子どもへの影響と健康被害について知るにつれ『子どもを被ばくさせた』事実」に強いショックを受けた。それは自分の子どもに対しても、被災地の、東日本で被ばくした全ての子どもに対しても。親として大人としてどう行動すべきか、問われ続ける日々が始まる。

▼ 移住の決断

Yは、家族や友人と情報共有の場を持つとお話し会を開くなどの活動を始める。脱原発デモをきっかけに「住んでいる街で、身近な人たちと一緒に意思表示しよう」と子連れお散歩パレード「なのはなこどもプロジェクト」も行った。国や自治体の対応に憤りを感じるなかで「政治的なアクションも大事だと思った」。一方で「子どもたちはまだ小さくてまともにマスクもできない。そもそもマスクをしなきゃいけない場所を子どもと歩いていいのか」。常に疑問と危機感がつきまとった。

保育園では「水や給食、外遊びなどに対する不安や疑問を率直に話し合う雰囲気はなかった。国が安全だといえども区も園も安全というしかないのだ」。

そんななかでの、子どもの体調の変化。2人とも震災後半年体重が増えない。保育園でも7月頃、前月より体重減の子どもが多いと便りがあった。病気ではないはず。心情的には色々あったが、避難

を決めた。さらに「震災直後の都知事選で石原が再選。想像以上に現実、東京は『変わらなかった』」。

Y夫婦はともに東京出身。「東京を離れるなら移住しかない。私の家族も夫の家族も理解があり、夫も含め家族友人みんな応援してくれて本当に有り難かった」。10月、まずは母子で引っ越し。「半年後に夫が来て、夫婦で小さい会社を作り自宅兼事務所でデザインの仕事(東京の取引先とは仕事を継続)をして、だんだんと生活も落ち着いてきた」。家族の支援と、仕事。Y夫婦はそこがクリアできた。

▼ 現在の生活について

とはいえ移住は「ほとんど直感と勢い。よい判断だったのか正直わからない」という。「でも、地震や津波で一瞬のうちに亡くなった人たち、家族や家や生活の基盤を失った人たちが大勢いるなかで、私たちは準備して自分で決めて行動できる、だからがんばろうと思った。3.11はそれまでの生活や価値観を変えた。東京の人間が行動する・動くことが福島の人たちを孤立させないことになるんじゃないかとも思った」。

高知で、避難母子の会で出会った仲間となのはなパレードをしたり、映画の上映会や講演会を企画したり、避難者として大学生たちに向けて話をしたこともあるY。「とにかく表現すること、意思表示すること、考えて行動すること、続けていくことが大事だと思って3.11以降やってきたが、3年経って、今までとは違う『しんどさ』みたいなものを感じる」。変わらない政府・現実無力感を覚えたり、知り合ったばかりの人たちと活動することの難しさもある。

「身近には家族バラバラで母子避難を続ける人もいる。経済的にも精神的にも大変なことだと思う」。3.11以来、いつもモヤモヤしたものを抱えながら

— — —

手伝いをさせてもらった E さんに再会するため、仙台を再訪した。C さんの案内で E さん宅に到着。津波で全壊した家と作業場、ビニールハウスを全て再建し、E さんは元気に米づくりを再開していた。

C さん曰く、「E さんは震災後もポジティブに復興を目指してきて、それを実現した。でも若林地区にはお年寄りが多く、復興ムードもなく、とにかく活気がない。突然死もあるし、アルコール中毒になって日々を暗く過ごす被災者もいる。そういう地区にこそ、物理的・心理的な支援が継続的に必要」。とにかく継続的に復興支援に携わる…とのことだった。

2014 年 3 月。昨年 10 月に訪れてから、はや半年になる。仙台津波復興支援センターに電話し、C さんが語ったのは、意外な「その後」だった。

「3.11 から 3 年という節目に、一度、支援センターを閉じることにしました。しばらく公的な支援活動は休止します。」

何かあったのかと聞くと、深刻な答えだった。主に常連の地元ボランティアの、被災者やボランティア作業に対する姿勢が今年の冬頃から変わってきているという。なかなか畑の復旧に着手できず、精神的にも立ち直ることのできない被災者の方に、地元のボランティアが「いい加減やる気をだしてくれ」という気持ちがあるのか、対応が“上から目線”で、ボランティア作業を途中でやめてしまい、30 分ほどでセンターに戻ってきてしまうボランティアいるそうだ。

「もう一度、それぞれがボランティアのあり方を考え直して、本来の復興支援をできるようになってから、改めて地元密着型の支援センターを再開したいと思っています」。

センター自体は存続するそうなので、近いうちにまた再訪し、今度は若林地区のボランティア作業に参加したいと思っている。

▼ 友人のこと

仙台津波復興支援センターのボランティアに共に参加した友人は、茨城県ひたちなか市に住む。3.11 後、東海発電所の存在や東海村 JOC 臨界事故を地元の問題として意識していた彼女にとって、福島第一原発の人災は他人事ではなかった。

震災から 3 年経って、原発に対して地元の人の考え方に何か変化を感じるか聞いてみたところ、

周囲の多くは、3.11 以後、原発は廃止すべきだと話しているという。JOC の臨界事故の時は、原発廃止という話にはならなかったのだから、ものすごい変化だと実感しているようだ。しかし現在、東海村の原発は再稼働に向けて動いており、知人曰く「原発は反対だが、大きな利権や政治の動きから、再稼働の動きを止めるのは難しい」。彼女自身は百年後や千年後の日本のことを、私たちの子孫のことを考えたら、処分不能な危険ゴミを出す原発を再稼働させるなんてありえない、と強調していた。

▼ いわき市のこと

福島県いわき市出身の夫が、この 3 月に地元に戻り、震災後はじめての再会となった大学時代の友人から聞いた 3.11 に関する話を紹介したい。

いわき市で津波の被害が特に大きかったのは豊間海岸で、震災直後に現場を見に行った同級生は、住宅地だった一帯が津波にすべて浚われたという現実に変なショックを受けたという。

自動車のディーラーをしている後輩は、津波で浸水した道路に残された車を引き上げてほしいと、客からの依頼で海岸付近に出かけた。津波がおさまった直後で、遺体が方々に浮いていたその光景は、言葉に表せないものだったと話していた。

市役所に勤める一人は、最近になって福島第一原発から 20 キロメートル圏内に住んでいた人たちが、いわき市に住まいを持とうと移住し、一気に人口が増えていると話していた。というのも、東京電力による損害賠償金がここ 1 年ほどで原発による被災者に支払われはじめ、それを元手に不動産を買う人が増えているとのこと。地価の高騰も同時に起こっており、住宅建設会社が営業に走り回っているということだ。原発事故に関する高額な補償を得る被災者と、地震や津波によって失った不動産が一部だったため十分な補償を得られない被災者の間に、格差が生まれているという話もある。

被災地の実態については、地元で生活している人にしか分からないことがほとんどだと思う。今後も、節目となる「3 月 11 日」という日だけでなく、原発の人災事故、震災被害のことについて客観的な事実を知り、当事者の声を聞き続ける必要があると思った。

◎●◎ 東日本大震災関連映画リスト ◎●◎

東日本大震災をテーマにした映画や震災後に注目されている映画、HuRP会員が今観たい映画を取り上げました。下記以外に、ご覧になった映画、お勧めの映画がありましたら、HuRP事務局までお知らせください。

※タイトル（太字）、①制作年、②制作国、③監督ほか、④ドキュメンタリー、フィクションの別、⑤その他の順。*はHuRP会員が観た、あるいはこれから観たい作品。

【震災全般】

ありがとう*

①2006、②日本、③万田邦敏、④フィクション（ドラマ）、⑤阪神・淡路大震災関連、DVDあり

JAPAN IN A DAY*

①2012、②イギリス・日本、③製作総指揮：リドリー・スコット、トニー・スコット、監督：フィリップ・マーティン、成田岳、④ドキュメンタリー

逃げ遅れる人々―東日本大震災と障害者―

①2012、②日本、③飯田基晴、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

架け橋 聞こえなかった 3.11

①2013、②日本、③今村彩子、④ドキュメンタリー

Documentary/Georges Rouse Art Project in Miyagi（短編）

①2013、②日本、③高平大輔、④ドキュメンタリー

1000 年後の未来へ―3.11 保健師たちの証言―

①2014、②日本、③都鳥伸也、④ドキュメンタリー

【原爆・被爆】

ヒバクシャ 世界の終りに

①2003、②日本、③鎌仲ひとみ、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

ひろしま～石内都・遺されたものたち～*

①2012、②日本・米国、③リンダ・ホーランド、④ドキュメンタリー

放射線を浴びた X 年後*

①2012、②日本、③伊藤英朗、④ドキュメンタ

リー

【原発事故】

3.11 日常*

①2011、②日本、③わたなべりんたろう、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

相馬看花：第一部 奪われた土地の記憶

①2011、②日本、③松林要樹、④ドキュメンタリー

沈黙しない春*

①2011、②日本、③杉岡太樹、④ドキュメンタリー

希望の国*

①2012、②日本・イギリス・台湾、③園子温、④フィクション

先祖になる

①2012、②日本、③池谷薫、④ドキュメンタリー

立ち入り禁止区域・双葉～されど我が故郷*

①2012、②日本、③佐藤武光、④ドキュメンタリー

内部被ばくを生き抜く*

①2012、②日本、③鎌仲ひとみ、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

フタバから遠く離れて*

①2012、②日本、③船橋淳、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

犬と猫と人間と 2 動物たちの大震災

①2013、②日本、③宍戸大裕、④ドキュメンタリー

選挙 2*

①2013、②日本・米国、③想田和弘、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

遺言―原発さえなければ

①2013、②日本、③共同監督：豊田直巳・野田

雅也、④ドキュメンタリー

【原発問題】

渚にて*

①1959、②英国、③スタンリー・クレイマー、
④ドキュメンタリー

原子力戦争 Lost Love*

①1978、②日本、③黒木和雄、④フィクション、⑤DVDあり

原発切抜帖*

①1982、②日本、③土本典昭、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

あしたが消える—どうして原発？*

①1989、②日本、③構成演出：千葉茂樹・中嶋裕・田淵英夫・金高堅謙二、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

東京原発*

①2004、②日本、③山川元、④フィクション、⑤DVDあり

六ヶ所村ラブソディー*

①2006、②日本、③鎌仲ひとみ、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

100,000 万年後の安全*

①2009、②デンマーク・フィンランド・スウェーデン・イタリア、③マイケル・マドセン、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

祝（ほうり）の島*

①2010、②日本、③瀬戸あや、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

ミツバチの羽音と地球の回転*

①2010、②日本、③鎌仲ひとみ、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

渡されたバトン～さよなら原発～*

①2012、②日本、③池田博穂、④フィクション
▶7 ページに映画の紹介を掲載しています。

福島 六ヶ所村 未来への伝言*

①2013、②日本、③島田恵、④ドキュメンタリー

【津波・津波被害】

大津波のあとに*

①2011、②日本、③森元修一、④ドキュメンタリー

東北記録映画三部作 第一部『なみのおと』

①2011、②日本、③酒井耕・濱口竜介、④ドク

ュメンタリー

無常素描

①2011、②日本、③大宮浩一、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

生き抜く 南三陸町 人々の一年*

①2012、②日本、③森岡紀人、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

石巻市立湊小学校避難所

①2012、②日本、③藤川佳三、④ドキュメンタリー

3.11 後を生きる*

①2012、②日本、③中田秀夫、④ドキュメンタリー

3.11 を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば～

①2012、②日本、③青池憲司、④ドキュメンタリー

槌音*

①2012、②日本、③大久保倫伊、④ドキュメンタリー

津波のあとの時間割～石巻・門脇小・1 年の記録～

①2012、②日本、③青池憲司、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

東北記録映画三部作 第二部『なみのこえ 新地町／気仙沼』

①2013、②日本、③酒井耕・濱口竜介、④ドキュメンタリー

東北記録映画三部作 第三部『うたうひと』

①2013、②日本、③酒井耕・濱口竜介、④ドキュメンタリー

【津波被害、原発事故】

3・11*

①2011、②日本、③森達也・綿井健陽・松林要樹・安岡卓治、④ドキュメンタリー、⑤DVDあり

friends after 3.11*

①2012、②日本、③岩井俊二、④ドキュメンタリー

【復旧、復旧支援】

うたごころ《2012 年版》

①2011～2013、②日本、③榛葉健、④ドキュメンタリー

あの日～福島は生きている

①2012、②日本、③総合監修：是枝裕和、発起人：箭内道彦、監督：今中康平、④ドキュメンタリー、⑤DVD あり

缶闘記（短編）

①2012、②日本、③岸田浩和、④ドキュメンタリー

手のなかの武器

①2012、②日本、③吉本涼、④ドキュメンタリー

プロジェクト FUKUSHIMA !

①2012、②日本、③藤井光、④ドキュメンタリー

LIGHT UP NIPPON 日本を照らした奇跡の花火

①2012、②日本、③柿本ケンサク、④ドキュメンタリー、⑤DVD あり

遺体 明日への十日間*

①2013、②日本、③君塚良一、④フィクション、⑤DVD あり

僕らはココで生きていく

①2013、②日本、③下山和也、④ドキュメンタリー

祭の馬

①2013、②日本、③松林要樹、④ドキュメンタリー

わすれない ふくしま*

①2013、②日本、③四ノ宮浩、④ドキュメンタリー、⑤DVD あり

『渡されたバトン ～ さよなら原発』

貧しい村に原発誘致の話がくれば、村と村民のために、電力会社や国からのお金を少しでも多くもらおうと、村を思う人々が真剣に頑張ります。多少危険性があったとしても、原発を誘致する方が村民のためになると考えます。

原発誘致をすすめる人は、原発は危険だと考える人たちから、金に目がくらんだと批判されることがあります。しかし、少し立ち止まって考えてみる必要があると思います。

誰もが自分の生活のことを最重要に考えるものです。自分の主義・主張を曲げてでも、給料を貰う会社の指示には従い、代金を払ってくれるお客さんには逆らわずに生きていく。それは普通のことでないでしょうか。貧しい村に原発を押し付けようとする電力会社や国のやり方は断じて許されないと思いますが、原発誘致に賛成した人々を責めるわけにはいかないように思います。過疎地域の人々も都市部に住む者も、自分の生活を大事にしつつも、目先の利益や誘惑に飛びつくのではなく、一つでも二つでも本当に社会のために尽くすにはどうすればよいかを考え、実践していく、そんな生き方をしたいものです。

この映画は、原発を受け入れることになった住

民たちが、やがて原発の危険性についての合意を広げ、計画を撤回させた話です。原発をめぐる人々の葛藤、生身の人間ならではの複雑な人間関係などが見事に描かれています。

「渡されたバトン」。映画のタイトルには、少しでもよい社会を次の世代に受け継いでいこうという願いが込められているのだらうと思います。

（大川 仁）

『渡されたバトン ～ さよなら原発』

製作年:2012 年 上映時間:120 分

監督:池田博穂 脚本:ジェームズ三木

出演:赤塚真人、高林由紀子、渡辺梓、ほか

*全国各地で自主上映会が開催されています。



©「日本の青空Ⅲ」製作委員会

『日韓の現代史と平和・民主主義に思う』出版記念に寄せて

日韓の過去・現在を踏まえて共生を実現する—市民の力量が試される時代

安倍政権発足後の日本と韓国の外交関係は、近時とは異なり、敵対的とも思える関係になりつつある。

それは、日本が朝鮮半島を植民地化し、第二次世界大戦時に強制連行や従軍慰安婦の強制の事実について、安倍政権がそれらを否定するかの如き言動を国内外に発していることによるところが大きい。

日本国内では、それに呼応する一部「知識人」の言動や在日韓国・朝鮮人への排斥活動が行われるなど、結果的には、安倍政権が進める憲法「改正」、集团的自衛権容認の動きを支えるものとなっている。

東アジアにおける「過去の歴史の克服」は、そのまま東アジアにおける平和と民主主義の確立につながる重大な要素であるにもかかわらず…それゆえ、共生の道を歩むための試みは重要である。

韓勝憲(ハン・スンホン)弁護士は、日本占領下の 1934 年生まれ。戦後、韓国軍事政権下で弁護士として、多数の政治裁判の弁護人を務めただけでなく、金大中氏の弁護人、そして韓国民主化運動の中心人物として現代史を生き抜いてきた人物である。

日本との関係でも、金大中氏拉致事件をはじめ、軍事政権下においても日本のリベラルな人々と深い関係を持ち、日・韓の国という壁を越え、常に平和と民主主義の実現のために生きてこられた。

奇しくも、戦争責任が問われた岸信介氏の孫が総理大臣となり、軍事政権による独裁を続けた朴正熙(パク・チョンヒ)の娘が韓国大統領となった今日、あらためて日韓の現代史の意味を語り、未来に向けた平和・民主主義のあり方を示した『日韓の現代史と平和・民主主義に思う』(日本評論社)が 2013 年 11 月に刊行された。その日本での出版記念会が韓勝憲先生も来日し、去る 3 月 2 日に東京で行われ、現在の日韓の政治状況を変えるために何が必要かを共有する会となった。最後に韓先生はこう述べた。

「日本でこの本を刊行する私の立場と素懐は、本の「はじめに」に述べさせていただきました。私が体験、あるいは確認することができた日韓の現代史の断面を解剖し、正しい歴史認識にもとづいて、両国が友好発展の道へ進むべきだという念願が込められています。強い日本を、正しい日本へと、道徳的に格上げしてほしいという願いでもあります。」



▲韓勝憲弁護士

私はここで、いわゆる「第二の犯罪論」を思い起こしてあげたいと思います。過ちを犯すことを第一の犯罪だとすれば、それをしらばくれ、反省も是正もしない過ちは第二の犯罪だということです。残念ながら、日本の執権者は少なくとも対外政策の面において、第二の犯罪の道へ進んでいます。もちろん、韓国の執権勢力は対内的局面でそうです。日本は戦争と平和の問題において、韓国は民主主義と独裁の面において、これに当たる指導者を首脳として置いています。単純化して言うと、日本は平和の危機を、韓国は民主主義の危機を乗り越えなければならない段階に処しています。ここでは執権者の独断と独走に歯止めをかけられる国民の力量がもっとも大事です。」

日韓市民のこれからに、大きな示唆を与えてくれたのではないだろうか。

(H.K.)

【編集後記】▼2011 年の東日本大震災後、何度か 3.11 の特集を組んできました。今月の巻頭記事はいかがでしたか。震災当初とその直後の問題や課題から直接的、間接的に生じる新たな問題や課題を具体的に知るきっかけになったのではないのでしょうか。▽バラエティー番組に生出演しウカれる日本の首相だが、防衛大学の卒業式で集团的自衛権の行使を可能にする憲法解釈変更について改めて強調したことは大変遺憾だ。(望)

特定非営利活動法人 人権・平和国際情報センター Human Rights and Peace Information Center Japan

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402 号 電話&FAX 03-6914-0085 <http://www.hurp.info/>